

英語とパルプンテ — 私と英語の 10 の事件簿

三輪晃司

名古屋大学大学院人文学研究科

大学で英語講義を受け持っている者として「何のために大学生が英語を学ぶ必要があるのか」という問いを頻繁に考えます。ある人は英語という言葉そのものや外国文化への興味から、またある人は進学や昇進を見据え、資格試験でのスコア更新を目指して学習を重ねていらっしゃることでしょう。そのようなモチベーションの第二言語習得への影響は研究者の間で注目されてきたテーマの一つです (Gardner & Lambert, 1959; Gardner & MacIntyre, 1991)。反対に、日本で平均的な生活を営む限り英語は必要ないと、英語学習へのモチベーションを失っている方々もたくさんいらっしゃるようです。現に英語を使用することなく満足のいく生活を送れている大人が大多数なのですから、私も日本国民全員が高い英語能力を保持する必要はないと考えています (興味のある読者は 成毛, 2013 を参照のこと)。しかし、このような現状を理解した上で、それでも、大学で英語を履修している若者にとって、英語は勉強する価値があるものだと私は考えます。誤解を生まないよう、さらに詳しく対象読者を絞るとすれば、既定路線を歩きたくない冒険好きの若者にとって、英語は勉強する価値があると考えます。

英語を学ぶ価値があるか否かを考える際、まず「価値」の定義を再考して見る必要があります。一般的に「価値があるか否か」は「役に立つか否か」とほぼ同義の扱いを受けます。その定義通りなら、英語が使用できなくても満足のいく人生を送ることはできるのですから、英語を学ぶことに価値は無いとなります。しかし、ここで、役に立つことだけが価値のあるものだという考えから離れてみたいと思います。人気コンピュータゲーム『ドラゴンクエスト』の枠組みで考えてみた場合、英語習得を役に立つか否かで考えるということは、防御に特化した呪文「スカラ」や攻撃に特化した呪文「イオナズン」の習得を目指すことと似ています。用途が明確な役立つ呪文には疑いようのない価値があります。しかし、『ドラゴンクエスト』には、一つだけ用途不明な呪文が用意されて

いるということは注目に値します — パルプンテ。パルプンテの効果は予想外で、敵味方全員の能力値が上がることもあれば、敵味方全員が眠る、時間が逆戻りするということも起こりえます（その他：やまびこがこだまする、ドラゴンに変身する等）。そのような役に立つかわからないイレギュラーな呪文には価値がないのでしょうか？否、用途が明確な呪文を超えるトンデモない結末を生む可能性があるということと、その結末が何か予想できないワクワク感があるということに価値があるのです。

私は、英語は現実世界のパルプンテだと考えます。それがもたらす効果は人それぞれで、呪文詠唱者の想像を超えるものになります。人によっては、長期的にそれが死因になるかもしれませんし、人生最大の喜びに発展するかもしれません。「英語は私たちの人生の役に立つから価値がある」という考え方に違和感を持っている方々には、「英語は役に立つかわからないから価値がある」というパルプンテ的視点をおすすめします。以下は、中学校1年生から本格的に英語を学習し始めて以降、高校時代、カナダでの大学・大学院時代、ドイツでの研究員時代の中に、私の身に起こった出来事です。どれもパルプンテのような英語の呪文をマスターする以前には予想もされなかった出来事です。

【1】 英語のテスト中に寝る

「英語はおもしろい」というようなポジティブな宣伝文句をよく耳にしますが、私は、テストのために勉強しているような中学・高校での英語の勉強は好きではありませんでした。特に和文英訳問題など、本当は答えが無数にあるはずなのに、授業で扱った構文が使われていないと減点されるというのは今でも納得できません。パルプンテを唱えると、敵味方問わず寝てしまうというのはドラクエでお馴染みのパターンですが、英語の定期テスト中に、寝てしまったのは、そんな当時中学生でテスト嫌いの私だけでした。テスト終了の鐘の音で目が覚めると、目の前の意味をもたないシンボルに一瞬のうちに意味が宿り、身体中の汗腺から汗が吹き出しました。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【2】 17歳でラジオの修理と車の生産を依頼される

高校生になると、日本ペンパル協会を通して、ドイツ、アメリカ、ガーナ、韓国の同年代の高校生たちと文通をしていました。今のように電子メールが普及していなかった時代ですので、紙媒体でのコミュニケーションでした。私が書いた手紙が海を越えて相手に届き、返信が返ってくるまでに1ヶ月ほどかかりましたが、それが故に自分と相手との距離を感じることができました。文通が数往復したある日、ガーナ人の男の子から私が予想もしていなかったリクエストが届きました — 「Koji, my radio broke. Can you fix it? (中略) Can you make a car?」 — 日本人なら高校生でも、ラジオを直せ、車を作ることもできるというイメージを持っていたようです。国が変われば、経験も変わり、考え方も大きく変わるのであります。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【3】 「プレゼンなんてダメだ」というプレゼンを勧められる先生と出会う

高校生時代、バンクーバー（カナダ）の語学学校で勉強していた頃、英語コミュニケーションのクラスで、初めて英語でのプレゼンを行うことになりました。

リチャード先生) I would like you to make a presentation. Do you have any questions?

私) Richard, I disagree!

リチャード先生) Koji, could you tell me why? :)

私) I think ... we are going to write a script at home, memorize it, and then present in class. That is not communication (会話)! That is recitation (暗唱)! Can you really measure our communication ability with a presentation?

リチャード先生) Well ... Koji, that is a very good idea! Why don't you present on this topic? :)

このような経緯で、私の人生最初の英語プレゼンは「プレゼンなんてダメだ」に決定しました。反対意見にも耳を傾けてくれるカナダ人の先生のおかげで、自分の考えを素直に伝えるという学者として大切な習慣をスタートさせました（注：後に Communicationの意味は会話に限定されないということに気がつき、私は自分の理解が間違っていたことを理解したのでした）。このリチャード先生はじめ、その後12年のカナダ生活で出会った先生の中には（私の人生を部分的におもしろくないものにした日本の複数の体罰

教師達のように) 「年上=偉い=自分が正しい」という考えで私に接する人間は一人もおらず、学生の話しを聞き議論ができる大人ばかりでした。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【4】女性チアリーダーとしてステージで踊る

高校卒業後、大学教育を受けるためにカナダのカルガリーに渡り、マウントロイヤル大学の寮に入りました。当時はまだネイティブスピーカーが話す英語が完全に理解できず、寮の Triad (建物 3 棟の集まり) の仲間達が新入生歓迎会での出し物を話し合っている時もチンプンカンプンでした。会議後、いつもように英語から英語への通訳をしてくださっていたジョンさんが私に言いました。

ジョン) Koji, listen! We are going to make boobs, carry pompoms, and become cheerleaders. We are going to dance on the stage.

私) Aaaaahhhhhhh!! I can't! (大汗)

ジョン) Don't worry! No one is going to remember what will happen tonight.

カナダに渡って1週間後に女性チアリーダーとしてステージで踊ることになるとは(しかも、全力で踊って盛大な拍手をもらうことになるとは)・・・英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【5】カナダ人学生達と英語の講義で机を並べて覚醒する

カナダの大学で学士号を取る道を進んだ私にとって、英語の講義は避けては通れない道でした。卒業要件としてカナダの“国語”の単位が必要だったのです。そこで、まず手始めに、比較的楽に見えた Poetry (詩) のクラスに顔を出してみました。毎週の読書は1ページの英文テキストのみです。これくらいの読書量ならついていけると考えた私の期待は、短い詩に対して繰り広げられる毎週の長い議論であっさり裏切られました。詩のどこを読んでも、議論の対象となっている案件が書かれていないという悩みを抱えて教授のオフィスのドアを叩きました。

私) How can I understand a poem?

先生) You should read between the lines.

私) Mmmm ... but there is nothing written between the lines.

先生)

私) I should drop out from this course, shouldn't I?

先生) Well perhaps, that is a good idea.

詩が読めないタイプの間人だと自覚した私は、「The Novel and The Short Story (長編小説と短編小説)」のクラスを受講しました。1 学期の間に Emily Brontë の *Wuthering Heights* をはじめ長編小説 5 冊と短編小説 14 作を読み、感想文を数本書く、詩のクラスとは真逆の多読のクラスです。毎週 1 ページの詩のクラスとは違い、この小説のクラスでは 1 日に 50 ページほど読み進めることができなければついていくことができません。毎日眉間にしわを寄せてバスの中で本を開いていた結果、A-の成績で終わることができました。学部コースの平均は B ですので、上出来です。カナダ人学生と英語を勉強しても対等以上に競えると実感した私は、1 冊の本を数日で読む嵐のような学期から解放された後、1 冊の本を 1 週間ほどのゆったりペースで楽しむことを始めました。英文小説を 1 週間で読むことを“ゆったり”と表現できるようになるなんて、英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【6】優等生名簿、奨学金、飛び級のカナディアドリームを経験する

カナダの大学は学生の勉強へのモチベーションを誘発させるもので溢れていました。真剣に勉強していた形跡のない高校時代の成績証明書(体育が 90% で、必修科目はほぼ 60~70%)を握りしめカナダのカレッジ(2 年制の大学)に入学した私でしたが、やればやるだけ目に見える形で認めてもらえたことで、勉強漬けの大学生生活を過ごすことになりました。オフィスアワーに教授のオフィスを訪れ 3 時間教を請うなど、GPA 獲得ゲームに積極的に参加した結果、英語が第一言語でないという理由からくる劣等感は入学後 1 年ほど経つと消えていました。英語のハンディがあっても、単純に勉強時間を増やせば補える部分が多く、ペーパーテストに限れば、クラスで 1 番の成績を取ることでもできると理解しました(講義内での議論には最後まで圧倒されていましたが)。結果、大学長の優等生名簿表彰により大学の壁に名前を残していただき、大学院前期課程の 2 年を飛び級し、日本円にして合計 700 万円ほどの返済不要の奨学金をいただき、

学科史上最年少博士になるというカナディアンドリームを経験させていただきました。
英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【7】いきなり世界の舞台に出る

中学・高校と卓球に打ち込んでいた私ですが、全国大会を通過して海外の選手達と戦うことなど無理だと思っていました。しかし、世界大会に参加するためには日本国内の予選を抜ける必要はないのです。日本を出れば、そこが世界の舞台です。日本代表にならなくても世界各国の代表選手と一戦交え、交流することはできるのです。カナダカップにて、カナダナショナルチームの選手に逆転負けを喫してベンチでうなだれていた私に時のカナダチャンピオンが声をかけてくれました「Koji, I was watching your match. I thought you would win.」海外では、競技レベルの差があまり人間関係に介入してこないという新鮮な発見がありました。競技の外でも、国際卓球連盟主催の世界大会の運営に参加させていただいたり、当時世界ランキングを作成していた担当者とお仕事させていただいたり貴重な体験をすることができました（エクセルを使うことができなかった大学1年時の私にトロント～カルガリー間の長距離電話で使い方を教えてくださいました）。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【8】う〇こカレーとカレーう〇この国際交流をする

日本全国の小学生が議論する「う〇こカレーとカレーう〇こ、食べるならどっち？」問題ですが、まさかカナダでの大学院時代にこの問題をマレーシア人のルームメイトとカナダ人の大家さんと議論することになるとは思ってもいませんでした。実は国際的な問題だったのです。ちなみに、マレーシアでは「ごはん味のう〇こ」、カナダでは「チョコレート味のう〇こ」と別の食べ物に関わってくるようです。「カレー味のう〇こ」派の私と「う〇こ味のカレー」派のマレーシア人の大学院生が真剣に議論し、カナダ人の大家さんに感想を求めた結果・・・

私とルームメイト) Blah blah blah ... so, which do you want to eat?

大家さん) Neitherrrrrr ! Are youuu guuuuys crazyyyy!?

小学生の時にいくわした難問が国際問題に発展するとは・・・英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【9】英語を使ってドイツ語を身につける

ポスドク研究員としてドイツのテュービンゲンの街で生活することになった私ですが、当時のドイツ語能力はゼロ。ドイツ行きの機内で隣の席のおばさまに「Guten Tag!」と話しかけたのが私の初めてのドイツ会話でした。そんな状態でしたので、ドイツで生活を始めてから、語学学校に通い始めました。ドイツ語をドイツ語で教える直接教授法を用いた授業への参加です。全く理解できないだろう・・・と思いきや、これが意外と理解できたのです。理由はゲルマン語派に属する英語とドイツ語の類似度の高さにあります。Tomato は Tomate、English は Englisch と共通の起源をもつ同根語で溢れているのです。結果的に1年で街の皆さんに「Sie sprechen sehr gut Deutsch. (あなたはよいドイツ語を話す)」と褒められるようになりました（中には「Now I study English!」と英語で話し始める方も）。英語の話せないドイツ人の大家さんとドイツ語オンリーの契約書を前に Google Translate を介して会話をした時も役に立ったのは英語でした。Google Translate でドイツ語文を生成する際には、日本語より英語で入力の方が正確な結果が返ってくるのです。ドイツで生活する際にも英語が生きてくるため、2年で予想以上に成長することができました。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

【10】英語教育分野で大学教員の職を得る

中学校一年生の一学期中間テストにて A B C □ E の □ に入れるアルファベットすら間違えた中学生時代の私は、将来自分が英語で国際誌に論文を出版し、英語で面接を受け、大学教員の職に就き、英語講義の教壇に立ち、英語の学習アドバイスを書くことなど微塵も想像していませんでした。英語学習を始める前は予想していなかった出来事でした。

英語は私たちの人生に予想外の変化をもたらします。数学も音楽もスポーツも・・・なんでも予想外の変化を生み出すパルプンテ的側面をっていますが、英語は私たちを異なる文化、異なる世界へと導くため、結果的に予想外のイベントが予想外の場所で予想

外の人々と交わる形で起こりやすいという点でやや特異なのかもしれません。私の場合、監獄のような息苦しさを感じていた日本の学校から、英語が私を連れ出し、それまでの常識が覆るような世界を見せてくれました（刑務所と学校の類似点については、鶴見、1998 を参照のこと）。ここまで読んで「英語を勉強して起こるイベントはこの程度か」やら「自分はどうせ」と考えている方へ・・・いえいえ、おそらくあなたの身に起こる出来事は今のあなたの想像を超えることでしょうし、一見パルプンテ的に見える現象も当然の成り行きなのかもしれません。Covey (1989/2004) は、自分が影響を及ぼすことのできる範囲 (Circle of Influence) に力を注ぐことにより、Circle of Influence が広がり、自分の意識する範囲内 (Circle of Concern) の当初影響できなかった問題に影響を与えることができるようになるという Inside-Out の視点を提示しています。英語学習も同様に、何も難しいものではなく、最初から私たちの Circle of Influence の中に入っています。英語にコツコツ力を注ぐことで当初自分が想像もしていなかったイベントに影響できるようになることは、偶然でも奇跡でもないのかもしれません。結果が保証されている呪文は安心感があるものの、ワクワク感がありません。毎日同じことの繰り返しで、今後大きく変わらないであろう人生に飽き飽きしている人にパルプンテのような力をもつ英語の学習をおすすめします。

こうじは パルプンテを となえた。

えいごを なまぶ がくせいが ひとりふえた。

引用文献

- Covey, S. R. (2004). *The 7 habits of highly effective people*. New York: Simon and Schuster. (Original work published 1989)
- Gardner, R. C., & Lambert, W. E. (1959). Motivational variables in second-language acquisition. *Canadian Journal of Psychology*, *13*, 266-272.
- Gardner, R. C., & MacIntyre, P. D. (1991). An instrumental motivation in language study: Who says it isn't effective. *Studies in Second Language Acquisition*, *13*, 57-72.
- 鶴見 濟 (1998). 檻のなかのダンス 太田出版
- 成毛 眞 (2013). 日本人の9割に英語はいらない 祥伝社